

〔科目名〕 教養演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 下村 育世						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 近代とはいかなる時代か ——明治以降に変化したモノ・コトを宗教史に着目しながら考える （２）生活編							
〔演習内容〕 2024 年の大河ドラマ「光る君へ」では安倍晴明が登場し、貴族たちの求めに応じて占いや呪術を行っていた。今では陰陽師といえば物語のなかでのみ登場する架空の存在のように思われるかもしれないが、彼らは明治初期まで公家社会だけでなく生活世界にも実在した。しかし政府は明治初期に陰陽師の身分をはく奪、彼らは日本社会から公的に姿を消した。また仏教の僧侶が結婚し肉を食べる風景は日本では当たり前かもしれないが、これも明治初期の法令に基づいて宗派を問わず自由に行われるようになったものである。生活に息づいていた祭にも変化があった。例えば江戸三大祭の山王祭は、江戸時代まで太陽暦でいうと 5 月の初夏の時期に行われていたが、明治改暦により 6 月中旬の梅雨の時期へと変更を余儀なくされる。氏子たちは連日の雨天による祭典執行の困難さを訴え日取りの変更を願い出るものの、政府は拒絶。同祭は現在も同じ時期に開催されている。何故神社固有の祭の日取りにまで政府は口を挟むのか？これらの動きは、現在の政教分離の原則からは理解しがたいだろう。さらにこれらの事例からは、昔からの慣習のように見えるものも、実は比較的短い歴史しかないものもあるということが窺えよう。失われたものも多い。 歴史の教科書では、それぞれの出来事について評価が定まったような書き方がなされている。しかしその評価は変化する。それは新資料の発見による場合もちろんあるが、同じ資料を見ても解釈の仕方によって変わるかでもある。本演習では、テキストを用いながら、まずは歴史学の営みについて確認していく(成田龍一『近現代日本史と歴史学——書き替えられてきた過去』中央公論新社、2012 年などを候補とする)。次にテキストを輪読しながら、明治以降の人々の生活や思想の変化を考えていきたい。							
〔科目の到達目標〕 ・文章を正確に読み、それを要約できる。 ・読書レジュメを作成できる。 ・他者の意見を理解した上で、自分の意見を述べることができる。 ・批判的に読むということについて理解する。 ・図書館やデータベースを利用し、信頼に足る情報検索の方法を理解し、実践できる。 ・参考文献表を作ることができる。 ・研究をするにあたっての一連の手続きを理解する。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔前提条件〕 担当教員は今年度から本演習を担当するため、今年度はどなたでも受け入れます。 歴史や宗教に関心があることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) テストやレポート等は課しません。演習に毎回出席すること、必要に応じて読書レジュメなどを作成し発表することが必須です。議論においては積極的な発言を期待します。							

〔教科書等〕 テキストは、履修学生と協議の上選定します。各自入手してください。	
〔実務経歴〕 特になし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
春学期	テキストの輪読(テキストをじっくり読む経験を積む) & 秋学期の準備(教員の収集した史資料コレクションから各自好きな史資料を選定)
夏休み	秋学期の準備(先行研究調査)
秋学期	研究に必要な手続きを経験する & テキストの輪読 教員のコレクションから、各自好きな史資料を選び、それについての先行研究調査をし(一部の必読論文などを皆で輪読)、演習内で発表した上で、その史資料についての正確な説明文を各自作成することを考えている。それらの成果を、「展示」のようなものを企画し発表したい(と構想している。ハリパネを切るなど肉体労働も予定)。これらの作業を通じて、研究に必要な手続きを理解してもらう。